

日韓近代漫画年表

パク・ジンヒ（朴珍姫） 竹内美帆 鈴木翠

※ 偶数の頁は韓国近代漫画史、奇数の頁は日本近代漫画史である。

韓国近代漫画年表

西暦	事象	社会の動き
1909	『大韓民報』イ・ドヨンの「挿絵」掲載。	
1910	『京成日報』漫画掲載。『毎日新報』広告漫画登場。	
1912	子供雑誌『赤いチョゴリ』創刊。2-4コマ漫画「タウムオッジ」掲載。	
1923	『東亜日報』個人から漫画原稿を公募。 同誌読者漫画投稿覧を開設。	
1924	『朝鮮日報』「新春漫画」公募。 同誌成人向け娯楽漫画ノ・スヒョン作「愚か者の骨折り損」掲載。	
		「愚か者の骨折り損」の人気に伴い、以降漫画が新聞・雑誌に欠かせない存在になる。
1945	日本統治時代に強制的に廃刊となった新聞・雑誌の復刊と新しい新聞・雑誌媒体の創刊ラッシュ。	植民地解放。
1948	漫画専門雑誌『漫画行進』創刊。	朝鮮戦争までに創刊された雑誌の多くは安定した出版ができず、ほとんどが創刊後すぐに消えていった。
1949	漫画専門雑誌『漫画ニュース』創刊。	
1952	雑誌『学園』創刊。	
		朝鮮戦争中に成年向けの雑誌として発行された。『学園』誌に、明朗小説、明朗漫画が連載され、大人気を得た。

日本近代漫画年表

西暦	事象	社会の動き
1902	『時事新報』日曜版に漫画欄「時事漫画」登場。	
1905	北沢楽天による月刊誌『東京パック』創刊。	前年より日露戦争。第二次日韓協約締結。翌年には韓国総督府が開庁される。10年に日韓併合。
1909	『少年倶楽部』が創刊。	第一次世界大戦勃発。
1923	『アサヒグラフ』にて織田小星原作・東風人作画「正チャンの冒険」連載開始。 『報知新聞』にて麻生豊「ノンキナトウサン」連載開始。	関東大震災。
1924	子供向け漫画誌『子供パック』創刊。	
1930	街頭紙芝居に鈴木一郎原作・永松武雄作画「黄金バット」が登場。	
1931	『少年倶楽部』にて田川水泡「のらくろ」連載開始。	満州事変勃発。
1940	新日本漫画家協会発足、機関誌『漫画』刊行。	日独伊三国同盟締結。翌年の真珠湾攻撃から、太平洋戦争に。
1945	『漫画』復刊。戦後第一号の漫画雑誌。	1944年後半から46年にかけて、主要新聞から漫画の掲載が行われなくなる。 広島・長崎への原爆投下。太平洋戦争終戦。

1953	『学園』にキム・ソンファン（金星煥）作の明朗漫画「コサリ君ザンダリ君」連載。	戦争中の暗い時代を生きていた青年たちに明るく愉快的な笑いを与えた。大人気を得たため、連載後に映画化された。
1955	総合大衆誌『アリラン』創刊。同誌漫画公募展を開催し新人漫画作家を発掘。	
1956	漫画専門雑誌『漫画世界』、『漫画学生』、『漫画少年少女』創刊。	200 ページ程度の高級洋綴じコミックスが出版。 1956-1957 年 漫画専門出版社が多数設立。
1958	独立した専門的な形態の貸本屋登場。	
1961	韓国児童漫画自律会による漫画の事前審議開始。	1961 年 5 月 16 日、軍事クーデターにより軍事政権設立。 韓国児童漫画自律会は公的機関ではなかったが、設立には政府が深く関わっていた。
1964	子供雑誌『新少年』創刊。	1960 年代中頃、貸本屋が全国的に定着し、漫画読者の増加に伴い漫画ジャンルが細分化。
1967	多数の漫画出版社が集まり、株式会社協同を設立。	株式会社 協同による漫画の出版と流通の独占。
1968	韓国児童漫画倫理委員会設立。	韓国児童漫画倫理委員会は政府の文化広報部の傘下に設けられた法的機関。

1947	酒井七馬構成・手塚治虫作画『新宝島』発表。『漫画少年』創刊。	日本国憲法公布。関西を中心に赤本漫画の出版ブームが起こる。
1949	『朝日新聞』にて長谷川町子「サザエさん」、チック・ヤング「ブロンディ」連載開始。 『冒険王』『おもしろブック』創刊。	40年代末より、貸本屋のみに置かれる専用本の刊行が広がる。 1950年朝鮮戦争勃発、警察予備隊（現・陸上自衛隊）発足。 1951年サンフランシスコ講和条約・（旧）日米安全保障条約締結。
1955	『なかよし』『りぼん』等、漫画雑誌の創刊ラッシュ。	漫画を対象とする悪書追放運動が各地で起こる。
1958	『少女』にて高橋真琴「あらしをこえて」連載開始。	
1959	『週刊少年マガジン』『週刊少年サンデー』創刊。初の週刊少年漫画雑誌。 辰巳ヨシヒロら若手貸本漫画家が「劇画工房」を結成。	
1963	初の連続テレビアニメ番組「鉄腕アトム」放送開始。	1960年、（新）日米安全保障条約発効、安保反対闘争起こる。各出版社の共同で出版倫理協議会が発足。自主規制が行われるようになる。
1964	長井勝一による『月刊漫画ガロ』創刊。	東海道新幹線・名神高速道路・首都高速道路相次ぎ開通。東京オリンピック開催。

	韓国児童漫画家協会設立。	韓国児童漫画協会に加入した作家だけが事前審議を受けて漫画を出版することができた。
1969	『日刊スポーツ』創刊。韓国で初のスポーツ紙。	
1970	倫理委員会、韓国図書雑誌倫理委員会に統合。	
1972	図書雑誌倫理会、漫画専門委員会を設ける。 『日刊スポーツ』に高羽榮の「林巨正」連載。	韓国新聞史上初の大人向け劇画を連載し、新聞漫画に新しい道を開いた。
1974	成人漫画倫理実践要綱による成人漫画審議実施。	
1976	図書雑誌倫理会、韓国図書雑誌週刊新聞倫理委員会に名称変更。	
1977	成人漫画倫理実践要綱廃棄、成人漫画審議廃止。	成人漫画は審議の対象から外れ、以降漫画は児童・青少年用しか出版されなくなる。
1979	株式会社協同の独占流通体制が崩れる。	
1982	漫画専門雑誌月刊『宝島』創刊。	本格的な漫画専門雑誌の時代がはじまる。
1983	イ・ヒョンセ作『恐怖の外人球団』の成功。	『恐怖の外人球団』の人気に伴い、長編・劇画が貸本屋用漫画の主流になる。
1988	漫画専門誌の創刊ラッシュ。 国産アニメーションの制作ラッシュ。	1987年6月29日、民主化宣言によって出版の自由が拡大。 ソウルオリンピック開催。

1966	梶原一騎原作・川崎のぼる作画「巨人の星」等が連載中の『週刊少年マガジン』100万部を突破。	
1967	手塚治虫による『COM』創刊。	『漫画アクション』、『ヤングコミック』（1967年創刊）、『ビッグコミック』、『プレイコミック』（1968年創刊）など、青年向け漫画誌が相次いで創刊。
1968	『週刊少年ジャンプ』創刊。	
1970	『別冊少女コミック』にて竹宮恵子「サンルームにて」掲載。少女漫画において初めて少年同士の恋愛を描く。その後、萩尾望都、山岸涼子らを含めた「24年組」作家に注目が集まる。	日本万国博覧会（大阪万博）開催。石ノ森章太郎「仮面ライダー」放送開始。変身ヒーローブームが起こる。
		ジョージ秋山「アシュラ」、永井豪「ハレンチ学園」の描写が問題視されるなど、漫画に対する社会的な批判が続発。
		1972年あさま山荘事件、沖縄返還、中華人民共和国と国交正常化（台湾断交）、オイルショック。
1973	京都精華短期大学（現・京都精華大学）美術科においてマンガクラスが創設される。	
1975	漫画同人誌即売会「コミックマーケット」第1回開催。	宝塚歌劇団公演『ベルサイユのばら』が大ヒット。「ベルばら」ブームが起きる。
1978	初の女性読者をターゲットにした男性同性愛作品の専門雑誌『COMIC JUN』（のちの『JUNE』）創刊。	

1989	<p>純情漫画専門雑誌『ルネサンス』創刊。</p> <p>日本漫画雑誌システムを導入した週刊『IQ ジャンプ』創刊。</p> <p>『IQ ジャンプ』で「ドラゴンボール」の連載開始。</p> <p>図書雑誌週刊新聞倫理委員会、財団法人 韓国刊行物倫理委員会に改変。</p> <p>韓国アマチュア漫画サークル連合（ACA）結成。</p>	<p>「ドラゴンボール」の成功をきっかけに日本漫画の輸入が大幅に増加。</p> <p>1980年代末-1990年代初頭にかけて日本産漫画の海賊版コミックスが氾濫。</p>
1990	<p>スポーツ新聞『スポーツ朝鮮』創刊。</p>	<p>スポーツ新聞の競争構造に漫画が深く関わり、1980年代に貸本屋用劇漫画で活躍した作家たちがスポーツ新聞に移って成人漫画の連載をはじめた。</p>
1991	<p>週刊『少年ジャンプ』創刊。</p> <p>女子小学生をターゲットにした純情漫画専門誌『ナナ』創刊。</p>	<p>2大漫画専門出版社（ソウル文化社、大元動画（後の大元メディア））から読者の年齢・性別を細分化した雑誌が多数創刊。</p>
1993	<p>隔週刊純情漫画専門雑誌創刊ラッシュ。</p> <p>成人女性向け純情漫画専門雑誌『あなたへ』創刊。</p>	
1995	<p>成人漫画専門誌『ミスターブルー』、『ビッグジャンプ』、『トゥエンティーセブン』創刊。</p>	

1980	『週刊少年マガジン』『週刊少年サンデー』『週刊少年キング』『週刊少年ジャンプ』『週刊少年チャンピオン』新年特大号の総発行部数が1000万部を突破。	1983年、任天堂より「ファミリーコンピュータ」発売。以後、家庭用ゲーム機が普及、漫画とのメディアミックスも盛んになる。
1984	『週刊少年ジャンプ』にて鳥山明「ドラゴンボール」が連載開始。	衆議院予算委員会にて少女雑誌における性表現が問題され、少女漫画雑誌の休止廃刊が相次ぐ。
1986	石ノ森章太郎『マンガ日本経済入門』発行。1988年英語版発行。	バブル景気はじまる（～1991年）。 80年代後半から同人誌即売会を中心に、二次創作のやおいが広がる。
1988	川崎市市民ミュージアム開館。当初から漫画の収集を行う。	
1989	手塚治虫没。翌年、国立近代美術館にて「手塚治虫展」開催。	昭和天皇が崩御、「平成」に改元。消費税施行(3%)。 宮崎勤逮捕をきっかけに、雑誌・テレビ等のメディアにてオタクバッシングが起こる。
1994	宝塚市立手塚治虫記念館開館。その後、漫画家の名前を冠した記念館が各地で開館する。 『週刊少年ジャンプ』1995年3-4号が漫画雑誌歴代最高発行部数653万部を記録。	1995年、阪神・淡路大震災。東京で地下鉄サリン事件が起こる。
1996	『別冊コロコロコミック』にて漫画版「ポケットモンスター」連載開始。	90年代終盤から、一般家庭でのインターネット利用の普及が進む。

	ソウル国際漫画アニメーションフェスティバル (SICAF) 開催。	
1997	青少年保護法により刊行物倫理委員会が法定機構に復帰。 成人女性漫画専門雑誌『ナイン』創刊。	事前検閲から事後審議制へ変更。
1998	富川市、富川漫画情報センター設立。 富川漫画フェスティバル (BICOF) 開催。	成人用漫画に対する販売制限規定が厳しくなる。
1999	ソウル市産業振興財団、ソウルアニメーションセンター設立。 同人誌即売会コミックワールド開催。	
2000	N4、イスコミックス、コミックストウデイなど有料オンライン漫画サービス開始。 ポータルサイト MEDIA DAUM ウェブ漫画サービス開始。	
2001	ポータルサイト NAVER ウェブ漫画サービス開始。	
2003	MEDIA DAUM で連載されたウェブ漫画カンパル作「純情漫画」の成功。 学習漫画「漫画ギリシャ・ローマ神話」累計販売 1000 万部突破。	「純情漫画」は 2004 年単行本出版、2005 年舞台化、2008 年映画化された。

2002	『週刊少年ジャンプ』の北米版『SHONEN JUMP』発行開始。12年からは電子書籍に移行。	海外での日本漫画・アニメの人気を背景に、2002年小泉内閣において「知的財産基本法」成立。漫画・アニメ・ゲームを主要な「コンテンツ」として明言。
2006	京都国際マンガミュージアム開館。	2005年、インターネット掲示板の書き込みが基となり、小説、テレビドラマ化された『電車男』がブームとなる。 雑誌の特集や研究本を経て「腐女子」という言葉が一般化。 00年代中盤以降、出版社によるオンラインコミックが普及。
2010	東京都青少年健全育成条例改正案での「非実在青少年」が話題に。	2011年、東日本大震災、福島第一原子力発電所事故が発生。

参考：清水勲「日本マンガ史年表」『図説 漫画の歴史』河出書房新社、1999年、124-125頁。

2004	ウォン・スヨン作「フルハウス」のドラマ化成功（平均視聴率 32.1%）。	ドラマ「フルハウス」の成功により原作コミックスの売上も増加。
2006	ホ・ヨンマン作「タチャイカサマ師」の映画化成功（観客数 685 万人突破、歴代 7 位）	
2009	政府の文化体育観光部傘下の韓国文化コンテンツ振興院設立。 富川漫画情報センター、韓国漫画映像振興院に改名。	